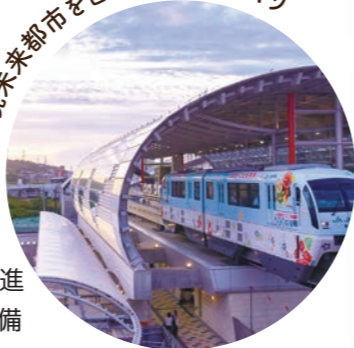


今年度取り組む 主な施策

環境未来都市を目指したまちづくり



1 産業およびまちづくり振興

- てだこ浦西駅周辺の整備、官民連携複合施設の事業実施に向けたまちづくりの推進
- 南第一および南第二地区土地区画整理事業の推進
- 東京ヤクルトスワローズ春季キャンプ時の賑わい創出や来場者に向けた市内周遊促進
- 牧港漁港の東防波堤改良工事、浮桟橋工事等の基盤整備、漁船保全修理施設の整備
- 返還後の牧港補給地区内に導入する都市機能の検討や、土地先行取得事業の推進

2 教育および文化振興

- 物価高騰対策、給付金事業など、児童生徒の健全な心身の発達と保護者の負担軽減、美味しい給食による食の充実
- スクールロイヤー制度導入により、法務の専門家からのサポートを充実させ、教育現場でのいじめや指導上の問題などの深刻化を防ぐ体制を構築
- 教育相談体制の構築や全ての小中学校での個々の特性に応じた支援。支援が必要な児童生徒への指導・助言
- 新市民体育館および陸上競技場による、スポーツを通じた観光交流拠点の形成やスポーツ観戦を意識した整備
- 当山小学校分離新設校の建設に向けた取り組み



地産地消で美味しい給食を推進

3 福祉および子育て支援

- 災害時に、自力避難が難しい要支援者への避難支援に備えた取り組み
- 全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへの一体的支援を行う「こども家庭センター」の設置
- 全ての妊婦・子育て家庭への経済的支援や伴走型の相談支援の充実
- 医療的ケア児の健やかな成長と、その家族の支援
- 「こども誰でも通園制度」の試行による先行開始



子ども・子育て世帯への支援

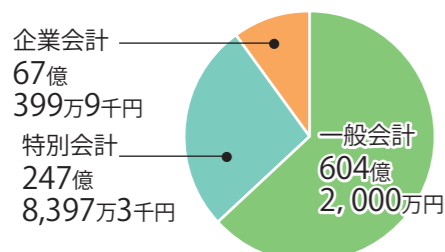
4 安心安全で 快適な環境のまちづくり

- 防災行政無線の市内全域整備と食料や物資の備蓄に向けた取り組み
- 沖縄県消防通信指令施設運営協議会への参画
- 地球温暖化防止対策の推進を図るため、浦添市道路・公園照明灯のLED化

5 市民協働の 推進および市政経営

- 開かれた市政運営を目指した情報発信
- 電子申請サービスの拡充や先進技術の活用による行政事務の効率化
- マイナンバーカードのさらなる取得促進

令和6年度予算



会計の区分について

- 一般会計** 福祉、教育、公共施設の整備、環境保全など市町村の基本的な施策を行うための会計です。
- 特別会計** 事業目的を限定し、特定の歳入を特定の支出に充てて経理する会計で、国民健康保険、介護保険などがあります。
- 企業会計** 独立採算による特定の事業を経理する会計で、水道事業会計と下水道事業会計があります。

令和6年度 施政方針



▲施政方針から抜粋して掲載しています。全文は市ホームページをご覧ください。

このたびの石川県能登半島地震により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を捧げ、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、被災地域の皆さまの安全の確保と、一日も早く平穏な生活に戻られることをお祈りいたします。

物価高騰への経済対策

近年の日本経済は国際情勢の変化等による物価やエネルギー価格の高騰を受け、経済や市民生活に大きな影響を及ぼしています。このような中、低所得世帯への支援金の給付をはじめ、令和6年度所得税・個人住民税の定額減税等について定めた「アフレ完全脱却のための総合経済対策」が閣議決定されています。本市では、早期対策に努め、令和6年度の学校給食物価高騰対策と一学期相当分の給食費無償化を進めます。

子ども・子育て支援

我が国は、未曾有の少子高齢化社会、人口減少社会に直面しており、本市もその例外ではありません。昨年6月、政府は3つの基本理念を踏まえ「こども未来戦略方針」を策定しています。さらにも家庭庁では「こども真ん中社会」を目指し、これまで以上に取り組む方針を打ち出しています。本市では、妊娠・出産・子育て等に関する相談窓口「子育て世代包括支援セン

西の未来創造都市

本市の西海岸開発は、那覇港湾湾計画を改訂し、港湾関連用地の物流空間や緑地・交流厚生用地等の交流・賑わい空間が位置付けられています。さらに、牧港補給地区跡地利用計画が策定されるなど、西部地域のまちづくりは大きな局面を迎えます。「未来創造都市」と位置付けた当該地域の可能性の最大化を図り、取り組んでまいります。また、那覇港湾湾施設代替施設につきましては、令和5年4月、日米合同委員会、那覇港浦添ふ頭地区の北側に配置する事で合意されています。当該施設の本市への移設は苦渋の決断であったことから、地域振興に資する特段の措置を国に求めるため、令和5年7月に防衛省や内閣府等に対し、10年ぶりとなる「那覇港湾湾施設移設受け入れに関する協議会」の再開を要請し、10月に防衛省主宰で当協議会が開催されました。

東の環境未来都市

本市の東側では、沖縄都市モノレールが令和5年に3両化運行を開始する中、駅周辺のまちづくりを進めています。とりわけ交通結節点として東の玄関口である、てだこ浦西駅周辺では、分散型エネルギーを活用した官民連携による複合施設の事業実施を進めており、環境的価値、社会的価値、経済的価値の最大化を目指したまちづくりを「環境未来都市」と位置づけ取り組みます。



浦添市長 松本哲治

協議会では、名称を「那覇港湾湾施設に係る、てだこの都市・浦添の振興に関する協議会」に改めることなどを了承いただいています。協議会を通して地域振興に寄与する事業等を国に求めることで、代替施設移設に対する市民の深い理解が得られるよう、引き続き取り組みます。令和6年度は、私が市長に就任して12年目を迎えます。「市民の横に」「市民と共に」をキャッチフレーズに「キッズファーストのまちづくり」および「沖縄一優しい福祉のまち」実現のため、これまで全力で駆け抜けてまいりました。市長3期目の集大成として、これら色とりどりの花を咲かせていくことが浦添市の魅力となり、持続可能なまちに繋がります。そして、これまで同様さまさまな手法で市民の声を聞き、市内外へ浦添の魅力を発信し続けます。今後は、市民のウェルビーイング満足度などの観点から現状や課題を多面的に把握し、市政課題を先送りせず、市民の皆さんと一緒に力を合わせて、新しい時代のまちづくりに進取果敢にチャレンジし、全力で走ってまいります。